

2014.6.7

生誕100年
名匠 **ラファエル・クーベリックの至芸**

プログラム

今年の3月、生誕100年に当たるイタリアの巨匠、カルロ・マリア・ジュリーニの特集を組みましたが、今回は同じ1914年生まれのもうひとりの名匠、ラファエル・クーベリックの演奏を特集することにしました。

ラファエル・クーベリックは1914年6月29日、チェコのビーホリー生まれで父は世界的なヴァイオリニスト、ヤン・クーベリック。1941年チェコ・フィルの首席指揮者に就任しますが、1948年チェコの共産化に反発して辞任、祖国を離れます。1950年から53年までシカゴ交響楽団音楽監督。1954年から58年までイギリス、コヴェントガーデン王立歌劇場音楽監督を経て、1961年から79年までバイエルン放送交響楽団の首席指揮者を務め、このオーケストラの黄金時代を築き上げました。1986年指揮活動から引退しますが、1989年にチェコの民主化革命が起きたのを契機に1990年5月、42年ぶりに祖国の指揮台に立ち、チェコ・フィルと「わが祖国」を演奏、このコンビによる「わが祖国」は翌1991年の来日公演で実現し、我々聴衆を熱狂させました。1996年8月11日スイスのルツェルンで死去、享年82歳でした。

クーベリックは、スメタナ、ドヴォルザーク、ヤナーチェク等のチェコ音楽、モーツァルト、ベートーヴェン、ブラームス、マーラーといったドイツ音楽の他、ロシア、北欧、フランス音楽まで、幅広いレパートリーを持っていましたが、どんな音楽でも、常に若々しさを失わない快活な響き、品位を失わない格調高い響きを持っており、更にスケールの大きな演奏も我々を魅了する大きな要因のひとつでした。

今日は得意のチェコ音楽とマーラー他、ベルリオーズというフランス音楽の名演も合わせて聴いていただきます。日本にも多くのファンを持つクーベリックの生誕100年の今年、改めてこの名匠の魅力を再認識する切っ掛けになればと思います。

レオシュ・ヤナーチェク (1854~1928):

シンフォニエッタ” ~ 抜粋

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団
(1981.10.15 ミュンヘン、ヘルクレスサールでのLive)

アントニン・ドヴォルザーク (1841~1904):

スラヴ舞曲第15番へ長調op.72-2

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団
(1975.5.27 日比谷公会堂でのLive)

ハクトル・ベルリオーズ (1803~1869):

幻想交響曲 ~ 第1楽章から、第2楽章、第4楽章、第5楽章

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団
(1981.9.24 ミュンヘン、ヘルクレスサールでのLive)

*** 休憩 ***

クスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第5番嬰ハ短調 ~ 第4楽章、第5楽章

ラファエル・クーベリック指揮バイエルン放送交響楽団
(1981.12.6 ミュンヘン、ヘルクレスサールでの放送用録音)

パドルジーハ・スメタナ (1824~1884):

連作交響詩“わが祖国” ~

交響詩“モルダウ” / 交響詩“フラニーク”

ラファエル・クーベリック指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
(1991.11.2 サントリーホールでのLive)